芸術・デザインと性差によるスピリチュアリティ
―東北芸術工科大学学生への意識調査結果に対する性別と学部別のクロス集計分析―
Spiritual Differences between Schools of Art and Design, and between Sexes

久保田 力｜Chikara KUBOTA
渡部 諭｜Satoshi WATANABE

We analyzed how many differences about spirituality exist between the students who aspire to be artists and the students who aspire to be designers, and between male students and female students in Tohoku University of Art and Design. We constructed the contingency table with the items of Question 1 and from the Questions 5 to 46 included in the opinion poll in January 2011. We used item frequency as one variable and sex or a School (faculty) as the other variable, and performed the chi-square test of association next. The relevance of sex and spirituality was significant at 0.1% in 13 items, and the relevance of the faculty and spirituality was significant at 0.1% in 9 items. As a result of analyzing those factors included in Kubota et al. (2011) research containing items obtained above, students in the School of Art were found to affirmatively evaluate the relevance of artistic creation and religious nature. However, students of the School of Design were found to more affirmatively evaluate the influence and the contribution which art and design exert on society.

Keywords:
スピリチュアリティ=spirituality、芸術学部=School of Art、デザイン工学部=School of Design、性差=difference in sexes、χ^2検定=the chi-square test、有意=significant

1. はじめに

私たちは、2010年1月、2011年1月と、これまで2回にわたり、芸術・デザインを志す学生たちに対して質問紙調査を実施し、その結果を報告してきた。その詳細については、

(1) 久保田力・渡部諭「芸術系大学生のスピリチュアリティに関する意識について―質問紙調査から―」,『印度学宗教学会 論集』第37号、2010、pp.(1)～(22).
(2) 久保田力「生・死・死後の色のイメージについて―東北芸術工科大学学生への質問紙調査から―」,『同 論集』第38号、2011、pp.(71)～(95).
(3) 久保田力・古藤浩・三瀬夏之介・渡部諭「芸術とスピリチュアリティ―東北芸術工科大学学生対象の質問紙調査とその分析―」,『東北芸術工科大学紀要』第18・19合併号、2011、pp.98～161.
(4) 久保田力「芸術とスピリチュアリティ」,『宗教研究』第371号、2012、pp.314～315.
(5) 同「「生・死・死後」の色イメージ―美大生への質問紙調査から―」,『宗教研究』第375号、2013、pp.348～350.
(6) 同「「生・死・死後」の色に関するイメージ―東北芸術工科大学学生への質問紙調査から―」,『東北芸術工科大学紀要』第20号、2013、口絵カラー頁pp.4～7及び本文pp.72～82.

を参照されたい。本稿においては、第2回目の調査結果(2011.1)に対するさらなる分析を試みた結果を報告しておきたい。つまり、芸術を志す学生たちとデザインを志す学生たちとのあいだにスピリチュアリティについての捉え方の

相違がどの点においてどの程度存するのかということ、また、男子学生と女子学生とのあいだには、それについての捉え方はどの点においてどの程度相違するのか、という2つの点に問題を絞って分析した結果を論じる。すでに、上記論文にて多少そのことに触れた部分もあるが、いまここに、より詳細に記しておきたい。

なお、当時の質問紙全体（全46項目）を本稿末尾に掲載しておいたので、質問項目の内容は逐次それを参照していただきたい。

2011年1月の意識調査に含まれる質問項目のうち、問1、問5～46の項目は、すべてリッカート型選択項目（いくつかの選択肢の中から1個を選択させる課題）である。問1および問5と6は10選択肢、問7は6選択肢、問8～46は4選択肢からの選択を求める項目である。

そこで今回は、上の各項目と性別および学部とのクロス集計を行い、続いてχ^2検定を行って、得られた結果について検討を加えた。χ^2検定とは、たとえばある項目と性別とのクロス集計表において、性別によって回答パターンに違いがないかどうかを判定する統計技法である。χ^2検定の結果、性別によって回答パターンに違いがあれば「有意である」といい、違いがなければ「有意でない」という。またこのときの結果がどの程度の確率で言えるかを示す値が有意水準で、0.1%、1%、5%という値を用いる。この値が小さいほど結果が確からしいことを表す。（χ^2検定はそれを検索する固定の一覧表が学術的に存在し、それで結果数値を判定する。本稿では、煩雑を避けて具体的な数値自体は表記せず、以下のように、結果のみ*印の数で示すことにした。）

2. 男女間におけるスピリチュアリティの捉え方の反応特性

最初に、各項目と性別とのクロス集計を行った。問1、問5～46の項目のクロス集計のうち、有意な結果を示したもののみを［図表1～29］に示す。図表中の左端の欄の数値は、0が男性、1が女性、3が不詳であることを表し、上端の欄の数値は選択肢番号を表す。例えば、［図表1］において、4の選択肢を選んだ男子学生は55人、女子学生は200人いることを示す。

そして、ここで重要なものが図表の説明に付けた*印である。これはχ^2検定の結果で、***が0.1%で有意、**が1%で有意、*が5%で有意であることを表す。つまり、*が多くなるほど「性別によって選択傾向に違いがある」度合が増すということを意味している。（「性別と選択肢との間に関連性がない」という棄無仮説が棄却されて、「性別によって選択傾向に違いがある」という対立仮説が採択される確率・頻度が大きくなる。）数値（ここでは*印）が3つのものほど、まれにしか起きないことが起こっていることを示すので統計的に意味があるのである。このような*3つの質問項目は、以下に見るとおり、問11、12、13、15、29、30、35、37、39、42、43、45、46の13項目であった。

［図表1］＊ 問1のクロス集計結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	10	24	48	55	7	1	1	2	0	15
1	22	131	155	200	18	9	8	0	2	34
3	0	5	5	5	0	1	1	1	0	3

［図表2］＊ 問5のクロス集計結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	18	11	35	29	49	8	10	1	1	1
1	43	49	115	122	179	47	13	7	1	3
3	4	0	5	2	6	0	3	1	0	0

［図表3］＊＊ 問6のクロス集計結果

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	10
0	0	36	31	23	17	46	3	3	1	3
1	1	104	94	140	73	130	20	8	7	2
3	1	5	0	6	3	6	0	0	0	0

［図表4］＊ 問7のクロス集計結果

	1	2	3	4	5	6
0	13	6	27	57	42	18
1	50	22	141	158	160	48
3	2	4	3	4	5	3

[図表5] * 問8のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	15	63	67	18
1	45	208	264	62
3	6	5	7	3

[図表6] ** 問9のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	60	75	22	6
1	142	263	143	31
3	10	8	2	1

[図表7] ** 問10のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	30	60	49	24
1	63	225	226	65
3	4	7	4	6

[図表8] *** 問11のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	27	34	42	60
1	56	177	213	133
3	3	3	7	8

[図表9] *** 問12のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	109	35	14	5
1	332	185	51	11
3	16	2	2	1

[図表10] *** 問13のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	46	48	44	25
1	83	151	218	127
3	4	8	5	4

[図表11] * 問14のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	42	49	46	26
1	88	178	221	92
3	7	5	6	3

[図表12] *** 問15のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	101	29	19	14
1	268	117	144	50
3	7	5	5	4

[図表13] ** 問16のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	30	40	55	38
1	69	148	233	129
3	8	4	2	7

[図表14] * 問26のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	43	51	51	18
1	87	186	206	100
3	6	7	5	3

[図表15] ** 問27のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	44	42	45	32
1	78	147	231	123
3	6	3	8	4

[図表16] *** 問29のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	41	40	53	29
1	68	128	295	88
3	6	7	5	3

[図表17] *** 問30のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	34	43	47	39
1	77	169	226	107
3	8	2	7	4

[図表18] ** 問31のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	36	42	57	28
1	61	161	258	99
3	6	6	7	2

[図表19] * 問32のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	80	60	15	8
1	216	274	80	9
3	11	8	1	1

[図表20] * 問33のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	63	69	22	9
1	213	292	55	19
3	11	6	4	0

[図表21] ** 問34のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	54	75	25	9
1	167	307	87	18
3	10	8	3	0

[図表22] *** 問35のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	55	57	40	11
1	121	252	157	49
3	8	6	4	3

[図表23] * 問36のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	53	56	34	20
1	113	247	157	62
3	9	5	5	2

[図表24] *** 問37のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	31	35	73	24
1	55	150	273	101
3	4	6	11	0

[図表25] *** 問39のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	24	35	47	57
1	40	95	253	191
3	6	7	6	2

[図表26] *** 問42のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	28	52	57	26
1	77	173	232	97
3	9	4	7	1

[図表27] *** 問43のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	32	59	51	21
1	86	212	208	73
3	9	5	6	1

[図表28] *** 問45のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	41	35	39	48
1	72	158	226	123
3	8	7	4	2

[図表29] *** 問46のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	48	35	39	41
1	80	202	193	104
3	7	5	6	3

3. 芸術学部とデザイン工学部との2学部間におけるスピリチュアリティの捉え方の反応特性

今度は、左と同様のクロス集計を各項目と学部について行い、有意な結果のみを[図表30～51]に示した。図表中上端の欄の数値の意味、およびχ^2検定結果の記号の意味についても性別のクロス集計表と同様である。ただし、図表中左端の数値は、0が芸術学部、1がデザイン工学部、3が不詳であることを表す。ここで*印3つの有意を示した項目は、問12、15、22、23、24、30、35、37、42の9項目であった。

[図表30] * 問1のクロス集計結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	13	83	111	140	12	5	2	0	1	29
1	19	75	87	108	13	4	6	2	1	20
3	0	2	10	12	0	2	2	1	0	3

[図表31] * 問11のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	33	110	153	100
1	47	98	95	95
3	6	6	14	6

[図表32] *** 問12のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	222	118	42	14
1	212	98	23	2
3	23	6	2	1

[図表33] *** 問15のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	187	76	89	44
1	175	69	73	18
3	14	6	6	6

[図表34] ** 問19のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	45	132	139	80
1	78	119	88	50
3	6	12	8	6

[図表35] ** 問21のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	37	109	155	95
1	59	114	108	54
3	3	8	15	6

[図表36] *** 問22のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	44	101	154	97
1	67	125	88	55
3	6	7	13	6

[図表37] *** 問23のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	31	134	172	59
1	16	81	145	93
3	2	14	13	3

[図表38] *** 問24のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	54	169	138	35
1	25	123	122	65
3	3	17	8	4

[図表39] * 問26のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	54	126	144	72
1	73	108	107	47
3	9	10	11	2

[図表40] * 問29のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	46	83	197	70
1	60	83	143	49
3	9	9	13	1

[図表41] *** 問30のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	55	114	151	76
1	54	96	114	71
3	10	4	15	3

[図表42] * 問31のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	41	103	178	74
1	53	95	135	52
3	9	11	9	3

[図表43] * 問33のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	147	203	34	12
1	127	153	39	16
3	13	11	8	0

[図表44] * 問34のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	111	208	64	13
1	106	168	47	14
3	14	14	4	0

[図表45] *** 問35のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	81	172	108	35
1	91	130	88	26
3	12	13	5	2

[図表46] *** 問37のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	35	99	189	73
1	48	82	153	52
3	7	10	15	0

[図表47] ** 問39のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	26	56	167	147
1	38	72	126	99
3	6	9	13	4

[図表48] *** 問42のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	39	120	161	76
1	63	98	126	48
3	12	11	9	0

[図表49] ** 問43のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	52	142	145	57
1	65	121	111	38
3	10	13	9	0

[図表50] ** 問45のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	47	102	149	98
1	65	90	108	72
3	9	8	12	3

[図表51] * 問46のクロス集計結果

	1	2	3	4
0	51	122	136	87
1	75	110	92	58
3	9	10	10	3

4. 因子分析との照合

最後に、各項目と性別および学部とのクロス集計において有意である項目が、前記久保田他論文(3)(2011)で得られた因子のどれに含まれるかを検討した。同論文(3)では、問8～46に対する回答データを因子分析した結果、「魂の輪廻転生観」・「天国・地獄の存在性」・「拡大的霊魂観」・「墓・葬式観」・「芸術創作と宗教性」・「守護者観」・「芸術・デザインの利他性」・「死者と神仏」の8因子が得られた。そこで、上のクロス集計分析において有意である項目がどの因子に含まれるかを整理してみた。その結果を[図表52]に示す。

この図表より、性別とのクロス集計および学部とのクロス集計の両方で同一項目を含む因子は、「拡大的霊魂観」と「守護者観」である。また、含まれる項目がある程度一致する因子は、「魂の輪廻転生観」と「天国・地獄の存在性」である。一方、どちらか一方のクロス集計でのみ項目を含む因子は「芸術創作と宗教性」(学部とのクロス集計)と「芸術・デザインの利他性」(学部とのクロス集計)である。

そこで、学部とのクロス集計でのみ項目を含む因子である「芸術創作と宗教性」因子と「芸術・デザインの利他性」因子に注目する。この2因子は、性別とのクロス集計ではそれに含まれる有意な項目が見つからなかったが、学部とのクロス集計においてのみそれに含まれる項目が存在する因子である。まず、「芸術創作と宗教性」因子に含まれる項目19、21、22のクロス集計表[図表34、35、36]を見ると、芸術学部において肯定的回答の比率が多いことに気付く。今度は「芸術・デザインの利他性」因子に含まれる項目23、24のクロス集計表[図表37、38]を見ると、デザイン工学部において肯定的回答の比率が多いことがわかる。以上より、「芸術創作と宗教性」については芸術学部の学生の方が肯定的に受け止めており、一方「芸術・デザインの利他性」についてはデザイン工学部の学生の方が肯定的に受け止めていることがうかがえる。すなわち、芸術学部の学生は芸術創作と宗教性との関わりについて肯定的な評価をしている一方で、芸術やデザインが社会に及ぼす影響や貢献度についてはデザイン学部の学生の方が高い評価をしていることがうかがわれる。

5. 結語 ―今後の展開へむけて―

今後私たちは、このようなスピリチュアリティ調査に色彩感覚という要素を取り入れた新たな調査を目下計画中である[1]。芸術やデザインを志向する学生である以上、色に対する思い入れや感性は一般の人間よりは敏感であろうことが予想される。すでに、前記久保田論文(2)、(5)、(6)にて、「生の色」「死の色」「死後の色」に関するイメージ調査の結果は発表したが、色に関するイメージ調査はこれだけではあまりに簡略すぎて不足であることを感じた。もっと本格的に色のイメージと他のスピリチュアルな感性との連関を探ってみる価値があるものと確信した。

そこで、色彩感覚についての質問項目を多分に盛り込みつつ、同時にスピリチュアルな感性との関連性をも集計できうる質問紙の開発が必要になってくる。そのようなことを計量できる質問紙はいまだ存在しないと思われる。

また、そのことに加えて、東日本大震災後の芸術的感性(色彩感覚も含む)が変容したかどうか、もし変容したとすればどこがどのように変容したのか、などということも現在

[図表52] 因子に含まれる有意な項目

因子名	魂の輪廻転生観											天国・地獄の存在性		
項目	26	29	13	27	25	31	10	28	37	14	38	35	36	34
性別とのクロス集計	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○	○
学部とのクロス集計	○	○				○			○			○	○	

因子名	拡大的霊魂観		墓・葬式観			芸術創作と宗教性			守護者観		芸術・デザインの利他性		死者と神仏	
項目	45	46	16	18	17	21	19	22	42	43	23	24	40	41
性別とのクロス集計	○		○	○		○	○		○	○				
学部とのクロス集計			○			○			○	○	○	○		

問い直す価値のある問題であろう。

オウム真理教事件(1995年)や3.11ニューヨーク同時多発テロ事件(2001年)、東日本大震災と原発事故(2011年)などの深刻な事件・事故を経験し、現在も日々血生臭い事件・事故の数々を経験しつつあるわれわれ現代の人間は、自己や他者の命の尊厳や人生そのもの、生き方、生きがい、世界のありかたなどについてそれぞれ真剣に考えなくてはならない時代状況を生きている。そういう意味におけるかぎり、人間は個人個人がいわゆるスピリチュアルに生きていかざるを得ないのだ。このような状況に対して、芸術的感性なるものはいかに反応し、いかに機能するかということは重要な課題であろう。なぜなら、芸術やデザインを創作し、表現する者にとって、世界は癒しや救いの対象となるばかりか、不安や恐れや怒りなどの対象でもあるからだ。一方、芸術やデザインを受け取る側の者たちにとっても、彼らの表現を媒介にして同様の心理過程が発生するはずだ。

そうであるならば、芸術的感性はいったいどのような本質や特性を持つものであるかが問題となろう。芸術やデザインを生み出す感性はどこから来て、どこへ行くのか?

そのことを考えるために私たちの調査は開始されたのだが、これまでの結果から判断すると、少なくとも以下の4種の感性の存在が予想される。1つは、現実的物質と強く結びついた身体的感性。2つは、個人的な趣味・嗜好に基づいた感覚的感性。3つ目は、歴史や文化を深く知れば知るほど学習されて身についていく知的感性。最後に、深層心理的で、自己の内面世界とそれを取り巻く外的世界や宇宙にまで時空が広く、深く掘り下げられた感性であるいわゆるスピリチュアルな感性。これは刹那主義的感性と対極にあると考えられる。

これら4種の感性がそれぞれ地層のように分離的・堆積的状態に存在するのか、あるいは脳の中のモジュールのようにそれぞれが部分的・並列的に存在するのかいまだ確定的な回答は用意できていない。自己の感性を形成する要因として、育ってきた生活環境、家庭環境や教育環境、また自然環境などは当然無視することはできない。しかし、翻って、生育環境、家庭環境、自然環境などが重層的に合成されて、いまの個人の芸術的感性を形作っていると予想されるのであれば、その化合や合成の実態やあり方を客観的・統計的に分析できる方法を私たちは問いたいのである。例えば、深い雪に閉ざされた自然環境で育った人にとって「白」という色はどのような感性を醸成するのか、またその感性への傾向性はどこまで普遍的なのか、個人的なのか。それは南国の眩しい太陽光の下で育った感性とどのような違いを見せるのか。そこに、教育環境や家庭環境といった補助線たちをどのように組み入れることができるのか。

近日中に色と五感や感情、趣味・嗜好、人間関係、自己認識などとの関わり方を問いかける調査を実施する予定であることは先述の通りである。しかし、これは芸術的感性の一端を把握するためのささやかな幕開けにすぎないことも承知している。色は人間の現実ばかりか、内面世界や深層心理を、瞬間的な不安定さを持ちつつもその情緒を代表する感性と考えられる。言い換えれば、色に対する態度は思考以前の反応と考えられる。これに対し、形は一般的にはより安定した、持続的・空間的な実在の象徴であろう。姿・形なき存在に人間は不安や恐怖を抱きやすい。形を捉えることは、色の感性よりも1つ認識や知覚の次元・段階が異なるように思われる。形の認識は理性的な知覚に接近しているといってもよいかもしれない。まさに、色と形は芸術的感性にとって密接不離な要素であろう。この根本的な課題を一石二鳥で正確に計測し把握する手だては、いまのところ予想できない。まずは色と五感等の要素の傾向分析を試みたうえで改めて形にアプローチする方法論を考察していく糸口を見出したい。

註

1. この調査計画は、「色・五感・心理等に関するイメージ調査」として、平成25年12月から平成26年1月にかけて実施された。現在その結果データを集計中である。

[執筆者]
久保田 力
Chikara KUBOTA
教養教育センター
Center for Liberal Arts
教授
Professor

渡部 諭
Satoshi WATANABE
秋田県立大学総合科学教育研究センター
Akita Prefectural University, Research and Education Center for Comprehensive Science
教授
Professor

［芸工大生のスピリチュアリティに関する意識調査　質問項目］　芸術学部（久保田力・三瀬夏之介）　デザイン工学部（渡部諭・古藤浩）

問1	魂（霊魂）を別の言葉で言い換えるとすればどれが最も近いと思いますか。 ①感情 ②命（生命） ③心（意識） ④精神 ⑤人格 ⑥力 ⑦価値 ⑧知性 ⑨理性 ⑩その他
問2	あなたの現在の「生」を一色の色でイメージするとしたら何色ですか。また、その理由も簡単に答えてください。
問3	あなたの「死」を一色の色でイメージするとしたら何色ですか。また、その理由も簡単に答えてください。
問4	もし、「死後」を一色の色でイメージするとしたら何色ですか。また、その理由も簡単に答えてください。
問5	最近の日本人のモラルについてどのように感じますか。
問6	最近の日本人の宗教心についてどのように感じますか。
問7	あなたにとって宗教に関することがらとして次のうちどれが最も重要ですか。1つだけ選んでください。 ①主な宗教の歴史 ②世界の宗教の分布 ③主な宗教の教えの内容 ④宗教の意義 ⑤ほかの宗教を信じる人への寛容な気持ち ⑥その他

		1.まったくそう思わない	2.あまりそう思わない	3.だいたいそう思う	4.まったくそう思う
問8	自分は縁起をかつぐほうである。	1	2	3	4
問9	信用できる占いはある。	1	2	3	4
問10	テレパシーや心霊や超能力などには信用できるものもある。	1	2	3	4
問11	UFOは存在する。	1	2	3	4
問12	自分には霊感があると思う。	1	2	3	4
問13	自分の前世はあると思う。	1	2	3	4
問14	パワースポットの存在を信じる。（その語を知らない人は1に○をつけてください。）	1	2	3	4
問15	ソウルメイトの存在を信じる。（その語を知らない人は1に○をつけてください。）	1	2	3	4
問16	自分の葬式は必要だと思う。	1	2	3	4
問17	自分の葬式は宗教的なものでありたい。	1	2	3	4
問18	自分の墓は必要である。	1	2	3	4
問19	あなたが創作や研究を進める上で、宗教的なことがら（質問7のあなたの回答）は必要だと思う。	1	2	3	4
問20	あなたが創作や研究を進める上で、命や自然を尊重する気持ちは必要である。	1	2	3	4
問21	命や自然を尊重する気持ちは宗教心と関係していると思う。	1	2	3	4
問22	あなたが創作や研究を進める上で、あなた自身の霊魂観（質問1のあなたの回答）は影響する。	1	2	3	4
問23	あなたがめざす（考える）芸術やデザインはひとを幸せにすることができる。	1	2	3	4
問24	あなたがめざす（考える）芸術やデザインは世界を平和にすることに貢献できる。	1	2	3	4
問25	死後の世界はあると思う。	1	2	3	4
問26	人は死んでも繰り返し生まれ変わるものだ。	1	2	3	4
問27	人は人間以外のものに生まれかわることもある。	1	2	3	4
問28	死後に、なんらかの審判はあると思う。	1	2	3	4
問29	死後、行き場所がなく、ただよう魂も存在する。	1	2	3	4
問30	魂の消滅もありうる。	1	2	3	4
問31	肉体は死んでも魂は残る。	1	2	3	4
問32	死んだ後も、あの世では、生前同様に生活することができる。	1	2	3	4
問33	死ぬと、暗闇の世界へはいって、二度とそこから出ることはできない。	1	2	3	4
問34	あの世があるとすると、この世よりもっとよい世界である。	1	2	3	4
問35	天国や極楽はあると思う。	1	2	3	4
問36	地獄はあると思う。	1	2	3	4
問37	何らかのたたりはあると思う。	1	2	3	4
問38	悪魔はいると思う。	1	2	3	4
問39	山・川・草・木などに自然の霊力が宿っているように感じることがある。	1	2	3	4
問40	死者は神になることができる。	1	2	3	4
問41	死者は仏になることができる。	1	2	3	4
問42	身近な人は亡くなった後、自分を守ってくれる。	1	2	3	4
問43	祖先は自分を常に見守り、助けてくれる。	1	2	3	4
問44	すべてのひとが魂を持っているわけではない。	1	2	3	4
問45	地球にも魂（質問1のあなたの回答）があると思う。	1	2	3	4
問46	宇宙にも魂（質問1のあなたの回答）があると思う。	1	2	3	4